

式辞

絢爛たる春の日差しを浴びて、ものみな萌え出づる今日の良き日、ご来賓の皆様、保護者の皆様ご臨席のもと、第三十七回卒業証書授与式を挙行できますことは、本校にとりまして、この上ない喜びです。

兵庫県立播磨南高等学校第三十七回卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。新型コロナウイルス感染者が日本で初めて確認された2020年1月15日から3年以上が経過しましたが、皆さんの高校3年間は、常に新型コロナウイルス対策の影響を受けてきました。入学式は縮小され、入学当初から長い臨時休校がありました。文化祭、体育祭などの学校行事や、部活動の大会が中止や縮小になりました。修学旅行は行き先が屋久島から軽井沢、金沢に変更になりました。友達や先生方の顔の半分はマスクで隠れ、表情が読み取れず、顔を覚えづらかったことと思います。

このように困難な、先の見えない状況の中、それでも皆さんはひたむきに努力を続け、今日の日を迎えられました。そして、愛情を持ってその努力を支えて来られた保護者の皆様にも、心からの敬意を表したいと思います。卒業生の皆さんがこれからずっと健康で幸せな人生を歩まれることを願ってやみません。

「幸せ」は日本国憲法第13条に幸福追求権として認められている「権利」です。私たちは自分の幸福を追求する権利があります。一方、フランスの哲学者のアランは『幸福論』の中で、「幸福とは義務である」と言っています。私たちは幸福になろうとしなければならないというのです。幸せになる権利があることはわかりますが、どうして幸せになる義務があるのでしょうか。不幸になろうが人の勝手ではありませんか。実はそうではありません。誰かが不幸でいいと考えて、自分などどうなってもいいと自暴自棄な生活を送ったとします。人は一人で生きているわけではありませんから、周りにいる人たちは、不幸でいいという人を見て、悲しみや不安、哀れみなどを感じます。幸せになろうとする人はその逆で、周りの人を励まし明るい気持ちにさせます。人間は共感するのです。ですから一人ひとりが幸福であらうとすることが、社会全体をよりよくすることにつながります。

幸せになろうとするとは、例えばどんなことをすればよいでしょう。アランはこうも言っています「幸せだから笑うのではない、笑うから幸せなのだ」。笑うから幸せになれるのはなぜでしょう。

あなたが笑うと、周りの人も共感し、安心して明るい気持ちになります。いつも上機嫌であることは周りの人への配慮なのです。

これから日本は急激に人口が減り、内閣府によると 2100 年には現在の半分の人口になると言われています。高齢者が増え、人手が足りなくなり外国の方々の割合が増えるでしょう。そんな社会では人と競争して勝ち残るというより、多様な人々を受け入れ、協力することが求められます。一人ひとりが他者を思いやること、人に親切にすることが、住みよい社会を作る鍵になります。

これから皆さんには、マスクを外した口元に絶えず微笑みを浮かべながら、誰もが住みよい社会を共に作ってほしいと思います。

皆さんは今日、本校を卒業します。明日からは、もう制服を着ることはなく、毎日のように顔を合わせていた友達とも、これまでのように会えなくなります。けれども、会えなくても友情は続きますし、播磨南高校はずっと皆さんを応援しています。

これから旅立っていくそれぞれの新しい世界の中で、皆さんが笑顔で困難を乗り越え、仲間と協力し、幸福な人生を歩まれることを祈念し、式辞といたします。

2023 年 3 月 1 日

兵庫県播磨南高等学校

校長 吉田 尚美